

エジプト駐在武官

日誌(9)

モーゼ山登山と宗教観

榊枝 宗男 陸自75

昨年11月末、エジプトのシナイ半島北部のモスクにおいて死者300名を超えるテロ事件が発生した。この地は映画「十戒」の舞台となった聖地でもある。旧約聖書ではユダヤ人奴隸のモーゼが、エジプトでの厳しい生活を

強いられていたアブラハムの子孫を引き連れて「約束の地カナン」へ脱出する。迫りくるラムセス2世の軍団が、逃走する幾万のユダヤ人を紅海に追い詰める。この時、モーゼの神への祈りにより海が二つに裂け、ユダヤの民たちをシナイ半島の対岸へ導き、追っ手を海の中へ没してしま

う。
そしてモーゼはシナイ半島の山中で神の啓示「十戒」を授かる。「あなたの父と母を敬え」「人を殺してはならない」「隣人を欺いてはならない」等の十箇条の戒律だ。

もう24年前になるが、家族5人でこのモーゼ山(230

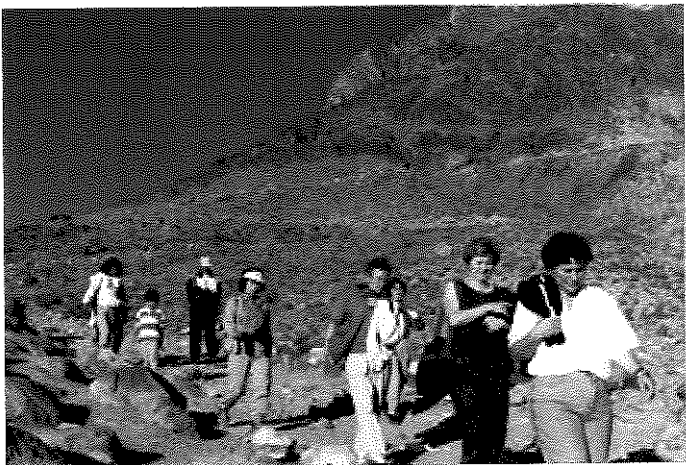
0m シナイ山とも言われる)に登った。

登頂の前夜、山麓に宿を取り、真っ暗な登山道を懐中電灯を頼りに歩き始めた。聖地であるため観光客が多い。4時間後、モーゼのはしごと呼ばれる3千段の石段を登り切ると、山頂の小さな礼拝堂に到着した。日の出の時、私たち以外はユダヤ人やキリスト教徒で、その多くは誰からともなく讚美歌を合唱し始めた。澄み切った空気の中にこだまする讚美歌の歌声と、さらに

雲の上の山々の峰が、荘厳な雰囲気を高めていく。

隣にいたイスラエル人老夫妻が「あなたの宗教は？」と尋ねてきた。「仏教ですが、熱心な信者ではありません」と答えると、2人ともやや怪訝な顔をした。ユダヤ教、キリスト教、イスラム教の三大宗教の聖地が集中するこの中東では、人は敬虔信仰心を持っていることが当然とされる。そして、その宗教観こそが、その人物の倫理観や道徳心そのものだと言われている。

宗教観が何よりも尊ばれるこの地では、無宗教者は排除され、人として扱われないとされる。わが家族全員が宗教について考えさせられた旅であった。



モーゼ山を下る観光客 筆者撮影